



Asahi Shimbun Digital 【and】



## 130ブランド、1900台を展示！ ドイツでキャンピングカーの祭典

文 渡部竜生

2014年9月10日



こちらの大型車はお値段2億2000万円！ 床下のスペースに納められているのは何とフェラーリ。もちろん、フェラーリ代は含まれておりません フォトギャラリーはこちら

ドイツの商業都市、デュッセルドルフ。毎年ここで、世界最大級のキャンピングカーショー「キャラバンサロン」が開催されるのです。キャラバンサロンは回を重ねること、今年で54回目。歴史が古く、有名で、出展台数も多い「キャンピングカーの祭典」です。今年も8月30日から9日間にわたって開催された同イベントに、私も取材に出かけてきました。

### [フォトギャラリーはこちら](#)

会場となるメッセ・デュッセルドルフは、幕張メッセ（関西の人ならインテックス大阪でしょうか）を数倍、大きくしたような巨大な展示施設。今年は去年よりさらに2ホール増えて、全11ホールを使用、屋外展示とあわせると総面積は19万平方メートル（東京ドーム4個分！）にもなる巨大なショーとなりました。ここにブランドにして130、台数で言えばおよそ1900台の車両が展示されるので、取材するほうも数日ばかりです。

取材初日、朝10時。日曜日だったこともあり、会場へとつながる電車はさながら通勤ラッシュの様相です。押し寄せる来場者の顔ぶれは若いカップルから杖をついた老夫婦まで、実に多彩でした。

デュッセルドルフから約80kmの首都・ボンからやってきたというシュフィールさんは40歳代のエンジニア。現在もキャンピングトレーラーを愛用中。「今のよりも大きいのに買い替えたくて、情報収集のために来た。土日で見ようと思うので2日券を買ってね。目的をトレーラーに絞っても、それでも数が多すぎて、とても1日じゃ見きれないんだよ！」

ミュンスター（デュッセルドルフから約100kmの地方都市）から来たという匿名希望の50歳代の夫婦は、長年のテントキャンプ愛好家だという。「かれこれ20年、テントキャンプに親しんできたが、準備とか撤収が少しおっくうになって、5年前に初めてキャンピングカーを買ったんだ。テントキャンプと違うのは、とにかくす

ぐに出かけられること。だから最近、週末や休みが短いときは近場を目指してキャンピングカーで出かける。長い休みが取れたときは、テントキャンプでじっくりアウトドアの旅を楽しむ。テントを抱えて海外旅行だってするんだよ」と、なんともうらやましいお話。

ヨーロッパのキャンピングカー事情は、長年、トレーラーが主流とされてきました。地域にもよりますが、ヨーロッパは基本的に小さな国の集合体で、都市部は人口が密集し、地形は山がち。道幅が狭く入り組んだ構造の都市が少なくないことから、遊ぶときだけ乗用車でキャンピングトレーラーを引っ張るスタイルが適していたからです。その事情に、ここ数年変化が現れてきました。

ひとつには、エコ志向によって乗用車のサイズがどんどん小型化していること。燃費の面からも環境負荷の面からも、買い替えるタイミングでサイズダウンする人が増えてきました。結果、それまで持っていた大きなトレーラーが引っ張りにくくなったのです。

一方、キャンピングカーで肝心の、居室部分はどんどん豪華に、サイズアップしていく傾向も見られます。結果、どうなったかといえば、キャンピングカーの流行の二極化と、自走式の人気上昇が始まったのです。

### 飽和状態の市場に自走式が波紋を呼ぶ

ヨーロッパのキャンピングカー市場は、歴史があるだけに、一通りの消費者に行き渡ってしまい、飽和状態にあります。この上、新しい商品売り込むためには、新たなスタイルや遊び方を提案する必要があるというわけです。そこでここ数年、大きなトピックとなったのがイタリアの自動車メーカー、フィアット社がパワフルで比較的安価なベース車両「デュカト」を発表したことでした。

デュカトのエンジンは110馬力から180馬力まで4種類のディーゼルトーボ。おかげでさまざまなサイズの多彩なキャンピングカーが開発可能になり、主だったキャンピングカーメーカーはもちろん、トレーラーメーカーまでもが、デュカトに居室を架装した自走式タイプを次々と開発し始めました。トレーラーメーカーの最大手、Hobby社でさえ、今回展示していた全73台のうち、自走式が31台、トレーラーが42台という割合だったほどです。

昨年取材したときには、フィアット社がブースを出し、デュカトそのもののプレゼンテーションに努めていましたが、今年はデュカトの牙城（がじょう）を突き崩そうと、フォード社が徹底攻勢を仕掛けているのが目に付きました。ワールドワイドに展開する新型車両「トランジット」を今春発売。サイズの面でも燃費の面でも、ライバルを研究し尽くした上に誕生したわけですから、十分マーケットで戦えるだけのスペックを引っさげています。実際、有力なメーカー数社に働きかけたらしく、今年は各所でトランジットベースのキャンピングカーを目にしました。

### 実際、人気なのはどんな車？

市場の思惑はさておき、実際のショーで目に付いたのはバンをベースにしたタイプでした。日本でもワンボックスバンをベースにした、いわゆる「バンコン（バン・コンバージョンの略）」が人気ですが、事情はヨーロッパも同じようで1ホールまるまるこのタイプの車の展示にあてるほどの力の入れようです。

バンコンは、まず、自動車部分がメーカーの工場から出てきたままのボディーなので加工賃が安く、価格が抑えられています。それでいて、車内居室部分で大人が十分に立って動けるだけの室内高があり、使い勝手も良好。道幅の狭いところでもきびきび走るなど、道路事情にも適しています。ベースとなる車両は前述のデュカトやトランジットですから、サイズも燃費も今の時代に合ったものが使われているというわけです。

さて、前の段落で「二極化」といいましたが、一方では大型でぜいたくなタイプも人気上昇中です。地続きで海外旅行ができて、海峡をフェリーで渡ればアフリカ大陸にも渡れるヨーロッパ。富裕層の中には長期休暇を利用してダイナミックな遊び方をする人も少なくないと見えて、巨大なバスサイズのものや、中には2億円の値札をぶら下げた車両も！ そんなブースの商談スペースが、そこそこにぎわっていたのが印象的でした。

老いも若きも。富裕層も庶民も。余暇を充実させて、自分のスタイルで旅を楽しみ

たい。そのぶれることのない姿勢は共通しているようです。おかげで価格的にも内容的にも、実に多彩な商品ラインナップが広大な会場に勢ぞろいし、ヨーロッパのキャンピングカー文化がいかに成熟したものであるかが実感できた今年のショーでした。

心豊かな余暇ライフを楽しもうとする価値観は、今の日本人にも共通です。ヨーロッパ生まれの個性も多彩な自走式やトレーラーの数々は、これからどんどん、日本にも入ってくることでしょう。日本には日本の事情やトレンドがありますから、そんなヨーロッパの傾向を日本人にどう受け入れられていくのか、楽しみに見守りたいと思います。

今回はメッセ・デュッセルドルフに併設された、巨大なキャンプ場からのレポートをお届けします。

## PROFILE



渡部 竜生 (わたなべ・たつお)

キャンピングカージャーナリスト。サラリーマンからフリーライターに転身後、キャンピングカーに出会ってこの道へ。専門誌への執筆のほか、各地キャンピングカーショーでのセミナー講師、テレビ出演も多い。著書に『キャンピングカーって本当にいいもんだよ』(キクロス出版)がある。エンジンで輪っかが回るものなら2輪でも4輪でも大好き。飛行機マニアでもある。旅のお供は猫7匹とヨメさんひとり

## おすすめコンテンツ

〈BOOK〉本当に効く食とサプリ  
[監] 田中平三、高橋英孝 [第二章編著] 朝倉哲也



〈BOOK〉死ぬまでに行きたい! 世界の絶景日本編 [著] 詩歩



〈BOOK〉マイ・ヴィンテージ・ハロウィン [著] マリオン・ポール



〈BOOK〉あしたも、さんかく毎日が落語日和 [著] 安田夏菜



〈BOOK〉ボブ・ディランロックの精霊 [著] 湯浅学



マッサージ棒「ザ・スティック」肩、背中、脚…全身コロコロで疲れやコリがとれる



〈野球用品〉今週のランキング

〈ブルーレイディスクレコーダー〉価格比較

〈デスクトップPC〉価格比較

〈ノートPC〉価格比較

〈ビデオカメラ〉価格比較

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.